

四国霊場7番札所・十楽寺

納経・御朱印 デザイン一新

学生らのイラスト採用

阿波市土成町の四国霊場7番札所・十楽寺が、納経御朱印、御詠歌のデザインを一新した。徳島穴吹カレッジの学生やイラストレーターから募ったイラスト2点を採用し、巡礼の魅力を一皮剥する。

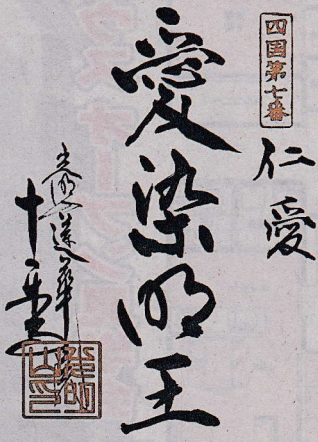
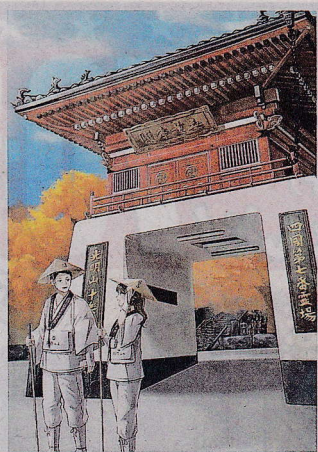
これまでは、ご本尊などを記した納経や御朱印を提供してきた。新型コロナウイルスの影響で人と人とのつながりが薄れていることに危機感を抱いた羯磨秀城住職(59)が巡礼のきっかけづくりにと、イラストをデザインに取り入れようと思いついた。

納経と御詠歌のデザインに選ばれたのは、徳島穴吹カレッジ(徳島市)のマンガ・イラスト学科2年濱田

春奈さん(20)の作品。山門の前で男女が巡礼に出発する様子を表した。

写真を何度も見て山門の造作を描いたといい「インパクトの強い山門なので、視線を集めるように描き方を工夫した。採用が決まっ

たときは信じられなかったが、モチベーションが上がった」と話す。御朱印に採用されたのは



【上】一新された十楽寺の納経。御詠歌も左側は同じデザイン
【下】御朱印のデザイン。愛染明王(左上)が見守る

フリーのイラストレーター坂本千夏さん(22)「大阪府の作品。愛染明王が十楽寺を訪れた女性を見守る姿を描いた。秋の十楽寺を舞台にしており「秋が来て女性の心も紅葉のように鮮やかに染まっていく姿を描いた。多くの人に見てもらいたい」と言う。物語仕立てにして季節に応じデザインを変える予定。

納経料は各500円。羯磨住職は「これをきっかけに、四国霊場を回る人が少しでも増えればうれしい。こんな時代だからこそ、巡礼を通じて愛やつながりを大切にしてほしい」と呼び掛けている。(秦梨帆)